裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行 NO	1879
日　時	2020 年 08 月 04 日（火）晴れ・比較的爽やか
山　域	木曽・御嶽山（3067m・日本百名山）
コース	御岳ロープウェイ・鹿の湯駅 BC ーロープウェイー飯森高原駅発 8:39 ー行場山荘ー八合目・女人堂 9:41 ー九合目・石室山荘 10:43 ー覚明堂 11:00 ー剣ヶ峰 11:26～38 ー石室山荘（昼食）12:00～30 ー飯森高原駅 14:17 ー R19 藪原「道の駅」（泊）
標高差	上り　飯森高原駅約 2130m～御嶽山・剣ヶ峰 3067m＝約 937m　（２Ｈ４７′） 下り　同上
山状況	藪なし・階段多い・歩き易い・飯森駐車場夜トイレあり・広大な駐車場
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
久しぶりの３０００m峰	
参加者	後藤、加藤、星、合谷＝4 名

前日の高山市・位山から御嶽山に向かう。久しぶりの御嶽山。昔は、山岳スキーで何度か通った。

ただ、何故か夏の沢上りはあったが、一般道は初見。御嶽山の一般道は、ぐるりと７本ある。日本一の富士山でも５本なのに。

従って明日、どのコースを上るかでアプローチが変わってくる。可能なら、古典的でロープウェイがない、黒沢道が良かった。しかし、連日の猛暑登山で全員いささか疲れ気味。しかも、本来の黒沢道は、百間滝経由で何と標高差は、頂上まで約１８６７ｍ！！ある。これは恐ろしい。

結局、ロープウェイはあるが、初心者に仏像など見どころが多い、御岳ロープウェイ・飯森高原駅からに決まった。この道は、八合目・女人堂で黒沢道と合流する。

次の課題はキャンプ場。三泊四日の日程で三泊キャンプ生活。快適なキャンプ場を期待したいが、今年はコロナで営業していない所が多かった。あちこち当たってみたが、イイ所がない。絶対条件はトイレが完備のこと。

最終的に御岳ロープウェイ駐車場に目鼻を付けた。電話すると２４時間トイレは利用できる返事。

話し方も好意的だった。１６時に職員は全員下山するという。ま、会社も翌日ロープウェイを利用してくれるので、厳しい対応ではない。冬はそのような客も多い。
　食材を携え本館の下の大駐車場で明るいうちに夕食。全く問題なかった。夕方、本館軒下に移動しテント泊。静かで快適だった。トイレはウオシュレットで便座も温かい。有難い。

　ロープウェイ始発は８：３０。料金は片道１３００ー。往復２６００ーだが、JAFF 割引が一割ほどあった。チケット購入は片道の方もいる。昔はスキーでゲレンデを飯森駅まで上ったこともある。今回もの意見もあった。しかし、標高差は丁度６００ｍ。約２時間必要。ロープウェイは１５分で着くから、やっぱり歩くのは大変。だが、途中で早々下って来た若い衆がいた。聞けば、「ゲレンデを歩いた」という。帰りはと聞けば「歩いて下る」とのこと。いやはや、アッパレ！！！
　アナウンスでロープウェイ中間に親子熊目撃の情報があった。我々は目撃できなかったが、何処かのオバサンは目撃したという。見られず残念。観光用！！？？それはないでしょう。

飯森高原駅

　駅から最初は木屑を敷いた歩き易い道。すぐ、行者山荘着。年配の小屋番がいた。とても丁寧で優しい感じだった。「ちからもち」が有名らしい。ゆっくり出来ないので、帰りに寄ることにした。道は階段が続いた。自然の樹木を巧みに敷いてあった。幅は高からず低からず。上りやすい。女性行者の着物歩幅に合わせてあるかも知れない。

そういえば、鹿の湯駅に本格的な恰好をした、女性行者が３名いた。写真許可を願ったが拒否された。そのうち上から男性行者が何人か下って来た。

行者は、手に白と赤・青・黒などの、「紙垂」（しで）を持ち、歩きながらヒラヒラ振っていた。何のためか聞いたら、一種のお祓いらしい。
・・・神社の拝殿などにある５色の布は、五色絹（ごしきぎぬ）と言われるものです。この５色は緑（青の代用）・黄・赤・白・紫（黒の代用）の５つになります。五色絹が用いられているものとしては、神具である真榊や、建物の上棟祭のときに屋根の上に付けられる吹き流しなどに用いられています・・・ネット

オジサンの話では、赤は怒り（を鎮める）、青は水を表しているといった。明るいオジサン達でした。更に上っていくと八合目・女人堂着。大きく立派な小屋だった。女人堂は、ひとつの「結界」で高野山など同様、昔、女性はこれ以上入れなかった。

・・・ちなみに、明治元年、「女人堂」が御嶽山で最初に山小屋としての営業を開始しています。つまりは御嶽山の山小屋のルーツで、当時はそれほど黒沢口を使う登山者が多かったということに。明治 24 年、ウエストンの御嶽山登山も黒沢口登山道往復と推測されています。

黒沢口八合目「女人堂」から 5 分ほど歩いた金剛童子の大岩が俗世と御神域の境界になっています。明治 5 年、太政官通達で神社仏閣地の女人禁制が解かれるまで、ここから先は、女人禁制。

女人堂がある 8 合目より先は、女性の登山が許されず、「頂上を目指した男性の帰りを女性がこの小屋で待っていた」ことからだといわれていますここを「女人頂上」とし、金剛童子の大岩が「結界石」となっていたのです。

金剛童子の大岩があるため金剛堂とも呼ばれ、国土地理院の地図には金剛堂と表記。

八合目・女人堂

・・・御嶽山信仰の歴史は、遠く平安・鎌倉・室町時代に興った民間信仰と山岳信仰が結びつき、御嶽山も最初は修験道の場として独自の山岳信仰として栄えるようになったといわれています。

そして徐々に厳しい修行を重ねた道者といわれる人々が集団で登拝することが風習となりました。

そんな中、1784 年（天明 4 年）に尾張の行者・覚明（かくめい）によって三岳村の黒沢口が開か

れ、続いて 1794 年（寛政 6 年）には武蔵國の行者・普寛（ふかん）によって王滝口が一般民衆に開放され、これを機に木曽周辺で留まっていた御嶽信仰が全国的な信仰へと広がっていきました・・・ネット

大きな鳥居の中に、真っ黒な、覚明と普寛の像が鎮座していた。この登山道が開かれたのは、今から約２５０年前。その割に荒れていない。勿論、関係者・信者のたゆまない努力がある。

ベニバナイチヤクソウ

モミジカラマツ

ゴゼンタチバナ

イワキキョウ

南面の花は期待するほどなかった。上記のものと、アキノキリンソウ・オンタデくらい。北面はコマクサ・ハクサンイチゲもあるようだ。女人堂から南にトラバースして尾根に出る。岩が多くなった。歩き易さは変わらない。天気は次第にガスが取れてきた。下部はモヤっていたが、上部は晴れている。青空がのぞく。九合目・石室山荘着。小屋下も上れるが、小屋中を通る登山道もある。面白い。帰りに寄りたいところだ。

ここで私は一つの山岳遭難事故を思い出した。２０１４年４月６日、静岡県連・Ｍ労山のＷさん（５２）が、遭難し石室山荘の北下で翌日遺体が発見された。王滝頂上小屋から単独行動ため詳細は不明だが、結果的に重大事故となった。この時期、積雪はまだ多い。４月といえ上旬では、冬山と変わらない。一旦、悪天候になれば厳しい山となる。基本的に単独冬山登山はやらない。。最近、つくづく思うことは、「基本を忘れない・基本に返る・基本的な行動をする」である。

事故報告書　http://susono-reihou.babyblue.jp/01-323.pdf

覚明堂上

石室からひと上りで覚明堂通過。無人だった。辺りから頂上付近が仰ぐことが出来た。空はすっかり晴れ上がり蒼穹が広がった。日差しは強いが高山故、案外爽やかだった。眼下に二の池が見えた。少し汚れていた。ちなみに、池は五つあるようだ。

最後上りきると、コンクリート製の大きく四角いブロックがあった。噴火後に作られたシェルターだった。左下は柱だけ残された、ボロボロの頂上小屋があった。噴火があったのは、小屋裏の地獄谷。こんな近くで噴火があったら逃げることは出来ない。

シェルター

再建中の頂上小屋

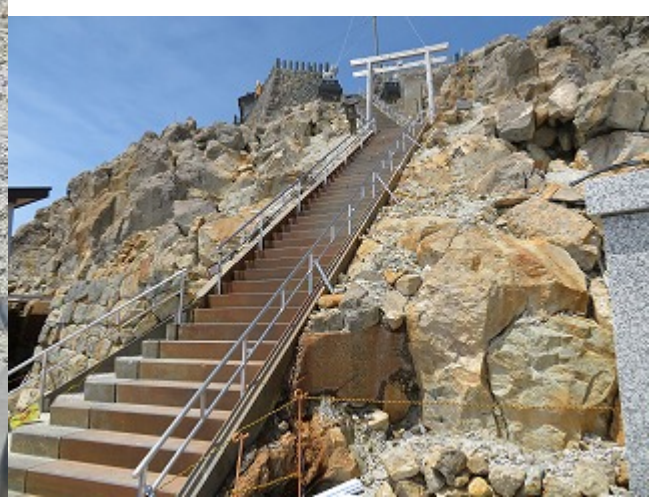
慰霊碑

石灯篭

そのままの石碑

慰霊碑は、死者５８名、今も行方不明５名と記されていた。行方不明５名は、一体どこにいってしまったのだろう。剣ヶ峰に上る階段の脇は、石灯籠などが噴火時の状態で残されていた。写真の石灯籠は、上部が傾いたまま、微妙なバランスで立っていた。

ちょっと、映画で観る、ポンペイの噴火のようだった。当日、ここは生き地獄だっただろう。天空から噴石は降る、空は真っ暗、泣き叫ぶ登山者がいる、地鳴・地震は恐ろしく続く、運が悪かったといえばそれまでだが、それを考えると胸を締め付けられる思いだった。



頂上祠で山伏格好の中年男性と若い女性が神主と祈祷を行っていた。理由は分からない。我々も神主の許可をいただき、噴火犠牲者・山岳遭難者の供養のため般若心経を一巻唱えた。幸いメンバー４名全員、巡礼経験者だった。私は御嶽神社の有料お札をいただいた。

頂上を後にする。昼食時間だが、頂上滞在は短時間にしたい。ガシガシ下って、石室山荘で昼食。疲れた。３日目の疲れがドッと出ていた。座敷に上がりビアをいただく。美味しかった。皆も「あったかウドン」を頼んで食べた。ウドンはイイ出汁が出ていた。

山荘の主人は温かい方だった。噴火時の話を聞く。噴石はここまで直線距離で１ｋｍくらいだが飛んでこなかったという。ただ、空は真っ黒で地鳴りが恐ろしかったそうだ。奥様は悲鳴を上げて半狂乱だったという。その後、噴石に備え屋根を二重構造に補強したという。正に生涯にあるかなしかの経験をした。頂上の御嶽神社の神主は、噴火日９月２７日は、既に下山済で難を逃れた。

噴火した地獄谷方面

　下りは、３日間の疲れで、時々、足がもつれた。下りでも十分足が上がらず時々、引っ掛かる。特に左足がおかしい。いよいよ歳か。困ったものだ。女人堂上まで下ると、行者装束の若い衆が上って来た。聞けば保科君といい、御嶽神社の神主という。まだ３０半ば。
　先ほど私がいただいた頂上御嶽神社に今日から寝泊まりするという。今いる方は下山するそうだ。荷は２０ｋｇくらい。お酒も飲むそうだ。イイ若い衆で、何だかんだ２０分ほど話し込んでしまった。他の下山者は、そそくさと下るが、このような機会は少ない。貴重な交流だ。

女人堂に下ると、熱中症になった女性が、事なきを得たと話していた。順調に下り、ロープウェイで無事帰還。ロープウェイはノンストップでグルグル回っていた。

車で山を下る。今宵の宿をどこにするか中々決まらない。キャンプ場がコロナ閉鎖で一番困る。結局、Ｒ１９の藪原「道の駅」でテン泊。ややトラックが五月蠅かった。翌日は、奈良井宿を見学し、甲府南の「みたまの湯」で汗を流し、合宿を終了した。

天候・仲間に恵まれイイ山旅だった。ドライバーのＫさんに感謝・感謝です。

御嶽山頂上

奈良井宿

長野県木曽郡木曽町三岳黒沢

（了）